

授業科目名・形態	在宅ケア論 I 講義	必修・選択の別	必修	単位数	2
科目担当者氏名	石川セツ子・工藤智美・黒澤繭子	実務経験の有無	有	開講期	2年前期

【授業の主題】

地域・在宅看護の概念や在宅看護の法的基盤とシステムについて理解する。高齢化社会を背景に健康概念に関する理解を深め、現状の健康問題について考える姿勢を養う。その上で在宅療養者とその家族に対する特性を理解し、対象者の多様なニーズへの対応、セルフケア能力の向上、在宅療養者への QOL を重視した支援方法、ケアマネジメントと実際について学ぶ。

【到達目標】

- 1) 社会状況を取り巻く在宅ケアの必要性和社会的背景を知るとともに、在宅看護の主な経緯と背景について理解できる。
- 2) 在宅看護の概念および倫理について理解できる。
- 3) 在宅看護の法的基盤システムについて理解し、地域包括ケアシステムへの取り組みについて理解できる。
- 4) 在宅看護が時代の変化に対応できるよう、継続的につなぐ看護の必要性について理解できる。
- 5) 日常生活における様々な援助方法（演習）を体験し、振り返りと課題について考えることができる。
- 6) さまざまな看護活動の実際及びケアマネジメントを理解し展開方法が実践できる。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 在宅看護の概念（石川）
 第 2 回 在宅看護をめぐる社会文化的背景①（石川）
 第 3 回 在宅看護をめぐる社会文化的背景②（石川）
 第 4 回 在宅看護の法的基盤とシステム①（石川）
 介護保険制度、地域包括ケアシステム、介護保険サービスと利用状況
 第 5 回 在宅看護の法的基盤とシステム②（石川）
 訪問看護制度、在宅医療と診療報酬、居宅等における医行為
 第 6 回 在宅看護における連携（退院支援の意義、看護職の役割、他職種との連携・協働）（石川）
 第 7 回 在宅看護活動の技術（コミュニケーション含む）（石川）
 第 8 回 在宅ケアマネジメントの実際（講義）（石川）
 第 9 回 居宅サービス計画書作成 ①（グループワーク）（石川）
 第 10 回 居宅サービス計画書の発表 ②（グループワーク）（石川）
 第 11 回 ヘルスアセスメントと看護技術（講義）1) 食事 2) 口腔ケアと嚥下訓練 3) 排泄支援
 4) 清潔ケア 5) 衣類・更衣 6) 洗髪 7) 移動の援助（石川）
 第 12 回 ヘルスアセスメントと看護技術①グループワーク（石川）
 第 13 回 ヘルスアセスメントと看護技術②グループワーク・発表（石川）
 第 14 回 ヘルスアセスメントと看護技術①（演習）（石川・黒澤・工藤）
 第 15 回 ヘルスアセスメントと看護技術②（演習）（石川・黒澤・工藤）

【授業実施方法】

講義・演習・グループワーク・発表など。

【授業準備】

社会背景と看護ニーズを関連づけて理解するため、厚生労働省「国民基礎調査」「地域包括ケアシステム」等の関連資料、参考書を読み事前学習をしておいてください。

【主な関連する科目】

在宅ケア論 I・II 在宅ケア実習 I・II

【教科書等】

石垣和子・上野まり 編集：在宅ケア論 自分らしい生活の継続をめざして、南江堂、改定版（2020.3 版）

【参考文献】

令和 4 年版訪問看護業務の手引き等、必要に応じ授業で紹介する。

【成績評価方法】

- ① 前期定期試験（60%）、②ワーク・レポート・演習等による発言、発表等（40%）による総合評価。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

訪問看護業務運営・管理および、訪問看護や在宅ケアマネジメントの実務経験を活かし、事例等を紹介しながら分かりやすい授業内容にする。また、看護技術を高めるため演習を通して実体験し、課題・疑問等について学生が考え自ら意見を言えるようにする。

【学生へのメッセージ】

- ① 在宅看護に関する法規、最近の社会情勢や国、県、市町村の施策の動きを知り、在宅支援に関して意識を高めましょう。
- ② 社会状況の変化に伴い、時代の変化に対応できる看護について考え、将来的には、患者本人が望む場所で療養できるように、尊厳ある 1 人の人間として接することができるようにしましょう。